

I. はじめに

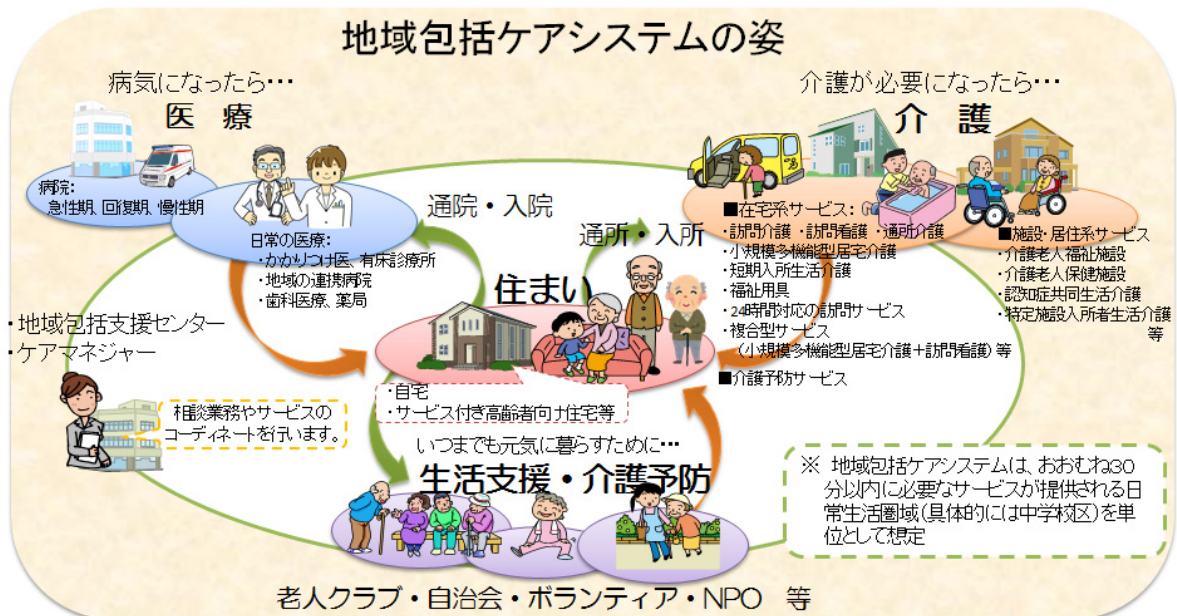
1. 地域包括ケアシステムとは

(1) 地域包括ケアシステムの構築が求められる背景

日本の高齢者人口は現在 3,000 万人を超えており、国民の約 4 人に 1 人は高齢者となっている。高齢者人口は増加傾向にあり、2042 年には約 3,900 万人でピークを迎えるものの、その後も医療や介護の需要の高い後期高齢者人口の割合は上がり続けると予想されている。約 800 万人いる団塊の世代がすべて 75 歳以上となる 2025 年以降は、さらに医療や介護の需要の増加が見込まれるほか、今後は高齢者の単身世帯・高齢者のみ世帯や認知症高齢者も増加すると見込まれている。

このような状況のなか、国では 2025 年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、また、認知症高齢者の地域での生活を支えられるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制(地域包括ケアシステム)の構築を推進している。また、地域包括ケアシステムの構築にあたっては、高齢化の進展状況に大きな地域差が生じているため、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが求められている。

なお、奈良県でも「奈良県高齢者福祉計画及び第 6 期奈良県介護保険事業支援計画」で、地域包括ケアシステムを県内全市町村で構築することを掲げている。



出典：厚生労働省

◎地域包括ケアシステムとは◎

高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるような包括的な支援・サービス提供体制の構築を目指すもの。「介護」「医療」「予防」という専門的なサービスと、その前提としての「住まい」「生活支援・福祉サービス」が相互に関係し、連携しながら在宅の生活を支えている状態とされる。



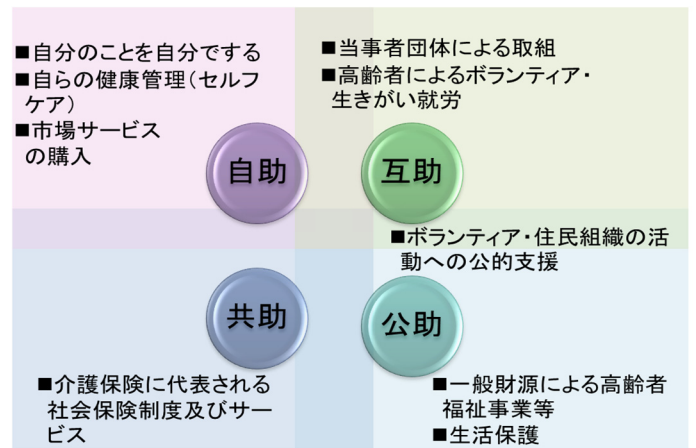
また、高齢者単身・高齢者のみ世帯が主流となるなか、在宅生活を選択することの意味を本人、家族が理解し、そのための心構えを持つことが重要とされている。

出典：「<地域包括ケア研究会>地域包括ケアシステム構築における今後の検討のための論点」（平成 25 年 3 月）

（２）地域包括ケアシステムにおける市町村の役割

地域包括ケア研究会によると、「自助・互助・共助・公助」で地域包括ケアシステムをみると、少子高齢化や財政状況から、「共助」「公助」の大幅な拡充は難しく、「自助」「互助」の果たす役割を意識し、取り組むことが必要であるとしている。市町村が取り組むべき方向性として、「市町村が、地域住民の意識付けや個人の意欲の組織化を施策として積極的に取り組み、社会全体の運動につなげていくことが重要」であるとして、「介護保険だけではカバーしきれない部分についても、様々な財源、方法で問題解決を図ること」や「潜在的な地域資源を発見し、互助を含めて地域包括ケアシステムに組み込んでいくこと」が重要としている。

■「自助・互助・共助・公助」からみた地域包括ケアシステム



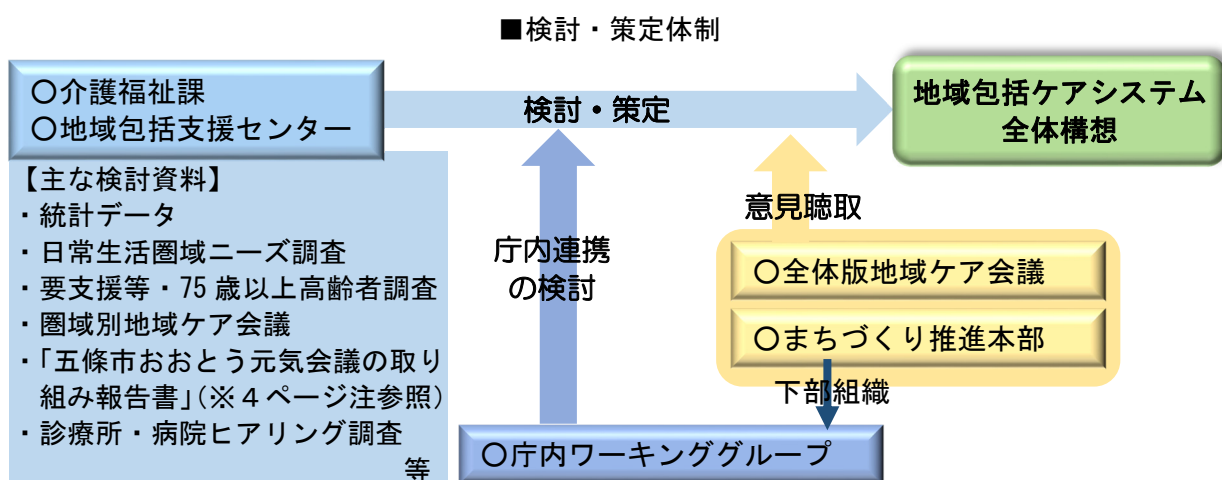
出典：地域包括ケア研究会「地域包括ケアシステムの構築における【今後の検討のための論点整理】-概要版-平成 25 年 3 月」（平成 25 年 3 月）

2. 五條市で地域包括ケアシステムを構築することの意義

(1) 五條市版 地域包括ケアシステム全体構想の策定にあたって

本構想は、これまでの地域包括ケアシステムの構築に向けて実施してきた施策をより一層強く押し進めるために、五條市としてどのような将来の姿を目指し、実現していくかを示すものである。策定にあたっては、五條市の高齢者のニーズや地域資源、各日常生活圏域（※）の現状と課題を踏まえたものとするため、平成 26 年度に実施した「日常生活圏域ニーズ調査」や、本年度実施したアンケート調査及び地域ケア会議等の結果を基に、介護福祉課及び地域包括支援センターが中心となって策定した。

また、今後の庁内連携を視野に入れて、まちづくり推進本部少子化・健康長寿・地域医療ビジョン部会の下に庁内ワーキンググループを設置し、庁内連携について検討を行った。



※住民の生活を支援する基盤を身近な生活圏域で整備するために、地理的条件、人口、交通事情などを勘案していくつかの地域に分けたもの。五條市では、中学校を単位とする6圏域を設定している

(2) 五條市で地域包括ケアシステムを構築する背景

五條市の平成 27 年 10 月 1 日時点の総人口は 32,703 人、高齢者人口は 10,700 人、高齢化率は 32.7%となっている。10 年後の平成 37 年には、総人口は 26,469 人、高齢者人口は 10,451 人となる見込みで、総人口の約 4 割が高齢者、約 2 割が後期高齢者となると予想されている。医療や介護の必要度が高くなるといわれる後期高齢者は、今後 10 年で 3.6%の伸び率となると見込まれている。

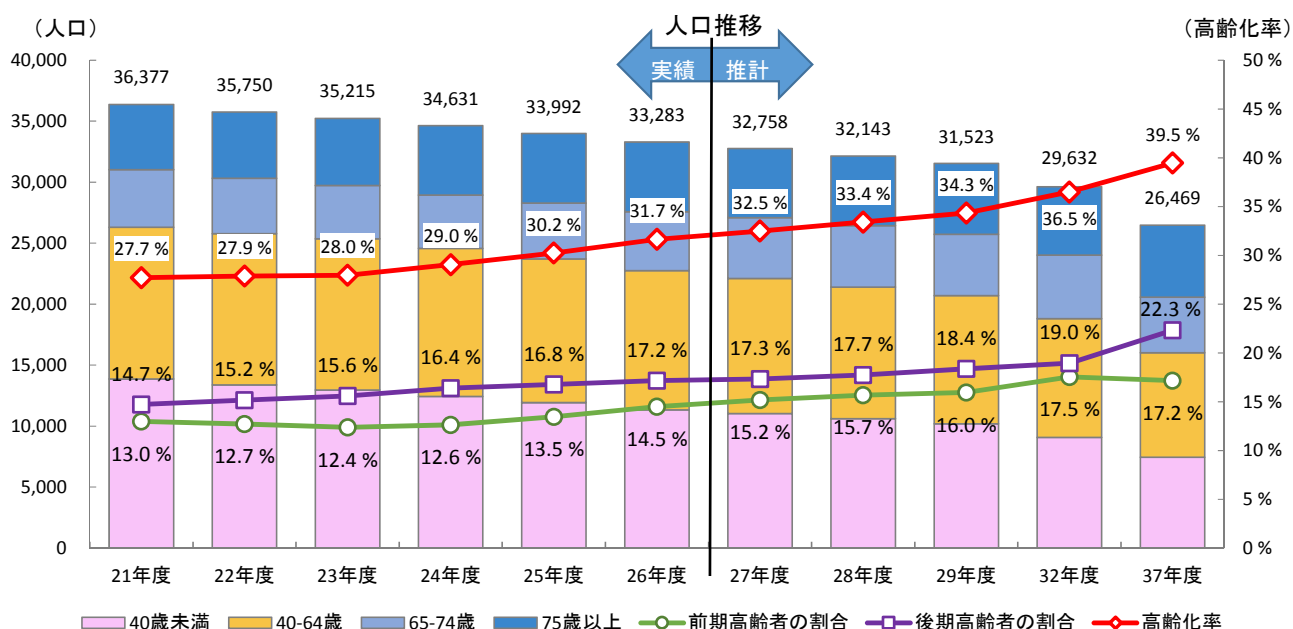
また、地域住民が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるためには、市全体でサービス提供を考えるだけでなく、市を幾つかの単位に分けて地域住民とともに検討し、各地域の実情に応じた対応を実施する必要がある。介護保険事業計画で位置づけている 6 つの日常生活圏域（中学校区）別に見ると、人口規模や世帯状況に大きな差があるほか、地理的条件や地域資源の質・量にも差がある。大塔地域を除く 5 圏域で

開催した地域ケア会議（※）では、地域の強みとして地域のつながりが多く挙げられたものの、少子高齢化を主な理由として徐々に地域のつながりが薄れつつあることが懸念されている。

一方、日本全体で介護職等の人材不足が問題となっており、五條市で介護サービス等を提供している事業所のうち7割半ばは、人材が不足・やや不足とし、不足している職種として、看護師・准看護師、介護福祉士等を挙げている（事業者調査）。高齢者を支える側が減少・不足するなか、医療や介護をはじめとする支援ニーズの増加に応える仕組みづくりも課題となる。

※大塔地域では、既に平成24年度から地域ケア会議（名称：おとう元気会議）を開催している。平成27年度は、大塔地域を除くその他の5圏域でワークショップ形式の地域ケア会議を開催した。おとう元気会議の詳細は28ページ参照

■五條市の人口推移と将来推計（各年度9月末時点）



	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	32年度	37年度
総人口	36,377	35,750	35,215	34,631	33,992	33,283	32,758	32,143	31,523	29,632	26,469
40歳未満	13,866	13,377	12,955	12,432	11,921	11,344	11,031	10,607	10,202	9,084	7,441
40-64歳	12,428	12,404	12,412	12,139	11,790	11,404	11,081	10,792	10,495	9,733	8,577
65歳以上	10,083	9,969	9,848	10,060	10,281	10,535	10,646	10,744	10,826	10,815	10,451
65-74歳	4,726 (13.0%)	4,549 (12.7%)	4,357 (12.4%)	4,379 (12.6%)	4,575 (13.5%)	4,825 (14.5%)	4,973 (15.2%)	5,041 (15.7%)	5,031 (16.0%)	5,199 (17.5%)	4,540 (17.2%)
75歳以上	5,357 (14.7%)	5,420 (15.2%)	5,491 (15.6%)	5,681 (16.4%)	5,706 (16.8%)	5,710 (17.2%)	5,673 (17.3%)	5,703 (17.7%)	5,795 (18.4%)	5,616 (19.0%)	5,911 (22.3%)
高齢化率	27.7%	27.9%	28.0%	29.0%	30.2%	31.7%	32.5%	33.4%	34.3%	36.5%	39.5%

出典：五條市老人保健福祉計画及び第6期五條市介護保険事業計画

（3）五條市におけるこれまでの地域包括ケアシステム構築に係る取組

五條市では、平成23年度に策定した『第6期五條市老人保健福祉計画及び第5期介護保険事業計画』（※1）において、地域包括ケアシステムの構築に取り組むこと

とした。そして次の計画にあたる平成 26 年度に策定した『五條市老人保健福祉計画及び第 6 期介護保険事業計画』においても、地域包括ケア体制のさらなる充実を図るとともに、認知症になっても、また医療と介護の両方が必要な状態になっても、地域で安心して暮らし続けることができるよう、認知症高齢者対策及び医療と介護の連携に重点を置き、計画を進めている。

また、『五條市まち・ひと・しごと創生総合戦略』（※ 2）においても、計画期間に取り組む主な事業として、地域包括ケアシステム構築事業を位置づけている。

※ 1：高齢社会をめぐる重要な課題に対して、五條市が目指すべき基本的な施策目標を定め、その実現に向かって取り組むべき施策を明らかにするもの

※ 2：まち・ひと・しごと創生法に基づき、五條市人口ビジョンを踏まえるとともに、国が定めた「まち・ひと・しごと創生」に向けた目標や重点的戦略、施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたもの

（４）地域包括ケアシステム全体構想の位置づけ

医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれ、地域のつながりの希薄化や支える側の手が不足するなか、各サービス・支援等の一体的な提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進し、可能な限り住み慣れた五條市で、自分らしく暮らし続けることができるように地域の実情に応じた取組を進める必要がある。

本構想は、『五條市老人保健福祉計画及び介護保険事業計画』と一体的に推進するほか、関連する個別計画や『五條市まち・ひと・しごと創生総合戦略』の施策と相互に連携を図り、『五條市総合計画』が目指す五條市のまちづくりを推し進めるものとする。

